

## 228. 雑談的なコミュニケーションの必要性

DX戦略部次長 神宮 誠

今月号の下水道よもやま話を担当いたします「DX戦略部」次長の神宮と申します。JSでは、「下水道プラットフォーマー」として、デジタル技術を最大限活用し、下水道事業の生産性向上や高度化を実現していきませんが、その旗振り役としてDX戦略部が新設されています。

JSでは、BIM/CIM モデルの他、360度カメラ、点群スキャナなどを用いて設計品質向上をはかり、ウェアラブルカメラやスマートフォンなどのデジタルデバイスを使った遠隔現場を積極的に導入し職員や施工業者の働き方改革をすすめています。

特に、小規模 ICT 施工に活用できるようになった市販の iPad や賃貸マンション内覧用写真にも使われている 360度カメラなど、簡単に手に入るツールも品質管理や業務の効率化を進めるツールとしてどんどん活用されてきています。iPad や 360度カメラは裾野広い分野でいろいろな使い方がなされているため、これらのツールをいかにJS業務に適用させ、品質管理や業務効率化を進めていくかについても検討しているところです。

このほか、Teams や ZOOM といったコミュニケーションツールは多くのところで導入活用されていますが、日本全国に事務所があり以前からテレビ会議システムが導入されている JSにおいても、この数年で JS内外との Teams や ZOOM をつかったコミュニケーションが一気に進み、施工時の立会いに遠隔現場の他、設計検討時にも活用されるなど業務の効率化が一層図られてきています。

コミュニケーション（英: communication）とは、『「伝達」「通信」「意思疎通」などの意味の表現。「交流を図る」「意思を伝え合う」といった行動を指す意味合いで用いられることも多い。言葉を使った意思疎通だけでなく、文字を使った伝達、身振り手振りによる意思表示などもコミュニケーションに該当する』と定義されています。Teams や ZOOM といったコミュニケーションツールが導入されると「情報伝達」という意味でのコミュニケーションは効率的になされるかもしれませんが、一方で雑談的な会話は少なくなるかもしれません。ただ、この雑談的なたわいもない会話からアイデアが生まれたり、ちょっとした会話から相手との関係性が深まったりすると言われてしますので、今後はデジタツールを使いつつ、たわいもない会話もできるようなハイブリッドなコミュニケーション環境も整えていきたいと考えています。

本当に「たわいもない会話からもアイデアが生まれたりする」のか？と言われる方もおら

れるかもしれません。そこで、たわいもない会話から思いもよらないものが生み出されてしまった瞬間をご紹介します。クロージングとさせていただきます。

みなさん、下水道バンザイというのはご存じでしょうか。ネットでググってみてください。某記事には「当時の国交省下水道事業課長の指示を受けた職員2人が開発」と紹介いただいております。当時、国交省下水道部の懇親会の場で、  
「ダム式バンザイと違ってあるじゃない、下水道でバンザイするとどんな感じかなあ〜。」  
「やっぱり管渠でこんな感じじゃないですかねえ〜。へへへ〜」  
「ああ、そんな感じねえ〜。できたねえ」という会話の後、懇親会の締めの際、「下水道バンザイ・・・の順番か」とつぶやいたところ、当時の下水道部長からも見てみたいと若干の無茶ぶりを経て、下水道バンザイの原型が生み出されたのでした。見終わった部長は目が点になっていましたがその広い心で受け入れていただいたようで、その後バンザイまでの前口上などが整えられていき、組織の結束力が高められていったはずです。

ちなみに、先日の下水道展で当時の下水道事業課長から「もうちょっと上品な下水道バンザイをつくれ」と性能発注されてしまい困っていたところなので、どなたか当方とのたわいもない会話にご参加いただければと思うところです。